

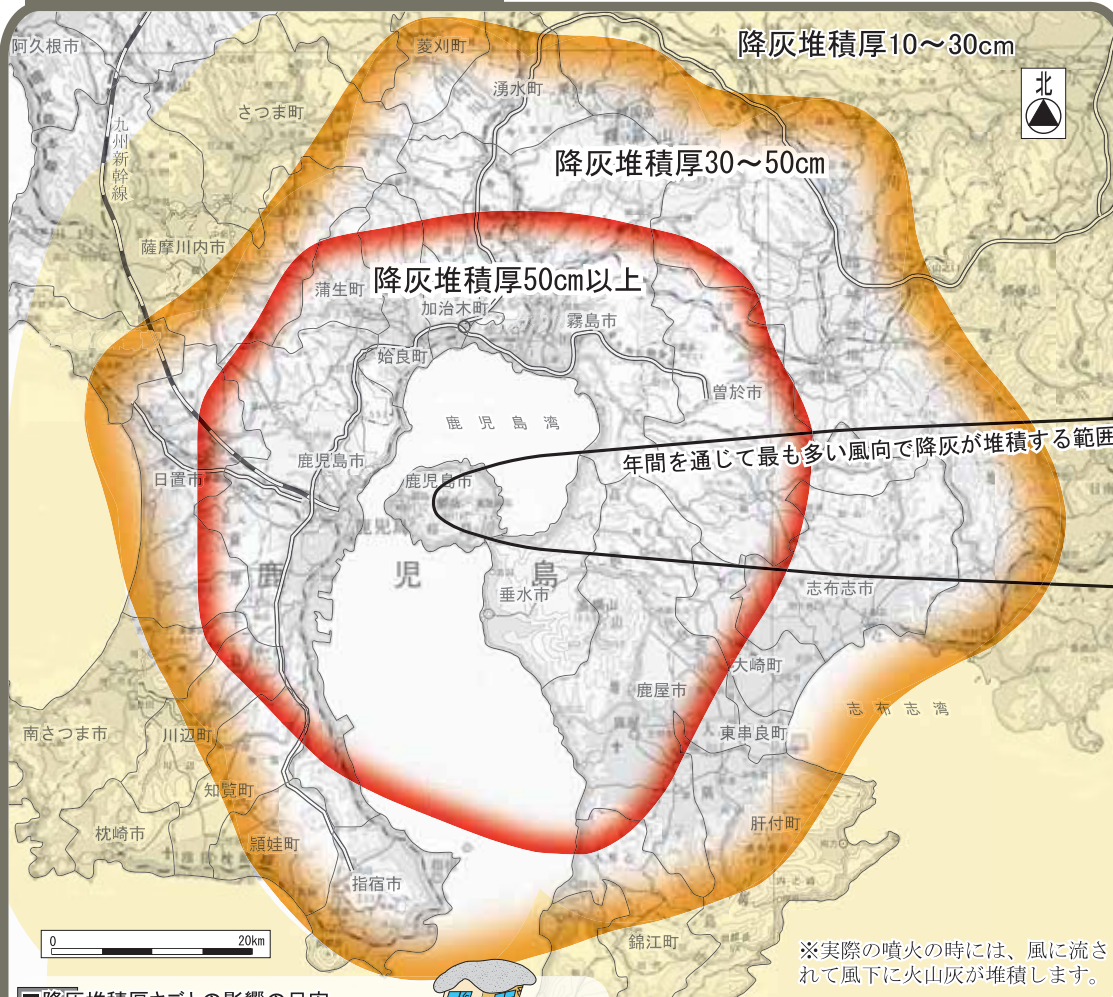
# 桜島広域火山防災マップ

## 【桜島で大規模噴火が起きると・・・】

- 過去に大規模な噴火が繰り返し発生しています。（大正、安永、文明噴火等）
- 大規模な噴火が発生すると、桜島島内だけではなく、広い範囲に影響が及びます。

### 【大規模噴火時の降灰分布予測】

＜この図は、降灰の可能性のマップを示したものです＞



#### ■降灰堆積厚さごとの影響の目安

50cm程度 ・木造家屋が倒壊する可能性があります。

- ・降灰が水を含んだ場合には、木造家屋が倒壊する可能性があります。
- ・山地の溪流では、土石流が多発します。

30cm程度 ・河川では、洪水氾濫が起こりやすくなります。

堆積厚さが数cm以下でも様々な影響があります。

- ・目、鼻、のどなどの異常
- ・視界不良、スリップ等による交通障害
- ・農作物被害
- ・道路のセンターライン、側線が見えなくなる等

■上の図は有史以降に最も多くの火山灰や軽石を噴出した文明噴火時の噴出量を想定しています。

■実際の噴火の時には、そのときの風向きによって灰が流される方向が変わります。

■桜島上空の一年間の風向、風速を分析し、各方位に火山灰が到達する可能性のある範囲の全てを包括的に示しています。（一度に、全ての方向に到達するわけではありません）

#### 降 灰

火山灰は風に流されて降り積もり、風下側では、噴火後2～3日間で堆積厚さ50cm以上になる可能性があります。

#### 土石流・洪水

火山灰が積もると、少しの雨でも土石流や洪水が発生しやすくなります。噴火が収まった後も、しばらくは発生しやすい状態が続きます。

#### 地 震

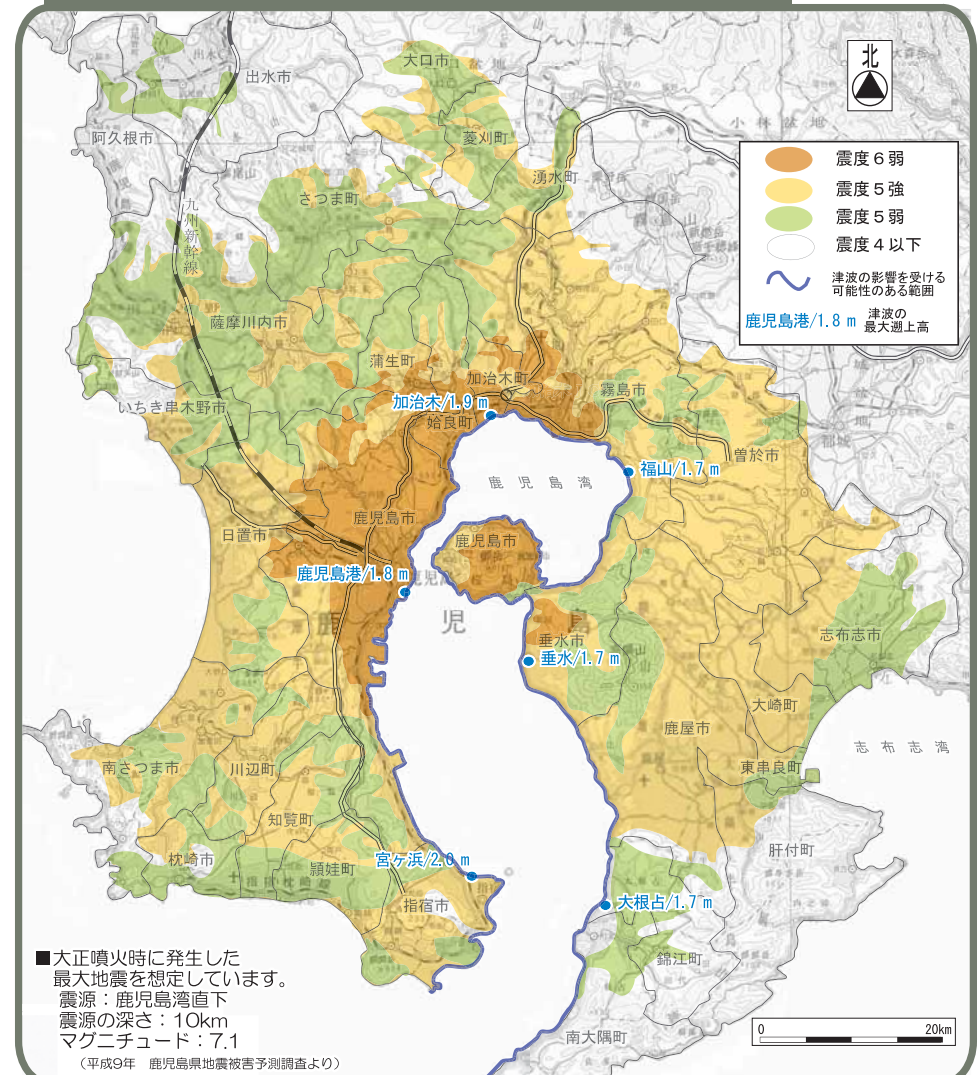
大規模噴火に伴い、桜島や周辺地域で震度5～6の地震が起きる可能性があります。

#### 津波・浸水

地震や海底噴火、岩なだれによる津波が発生することがあります。また、地下のマグマが大量に放出されるので、地盤が下がり、沿岸地域では浸水被害が発生することがあります。

広域的に  
影響

### 【大規模噴火時の地震による震度分布予測】



■大正噴火時に発生した最大地震を想定しています。  
震源：鹿兒島湾直下  
震源の深さ：10km  
マグニチュード：7.1

（平成9年 鹿兒島県地震被害予測調査より）



## 【過去の大規模噴火】

### 桜島の生い立ち

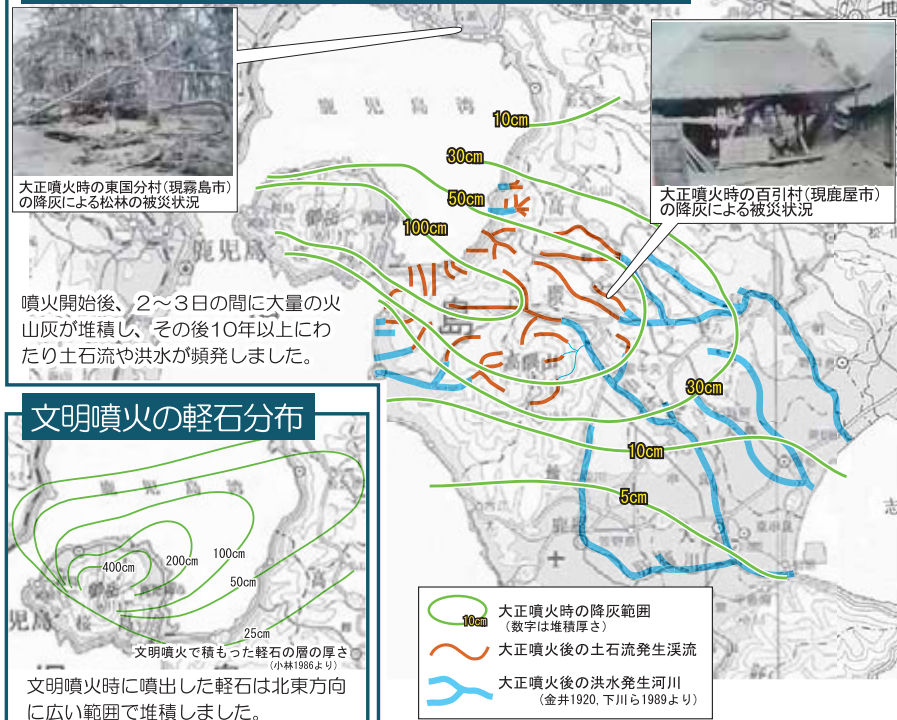


■現在のように南岳を中心とした活動が始まったのは約4千5百年前と考えられています。

■南岳で活動が始まってからは、現在見られるような断続的な噴火活動と静穏な状態が続く時と交互にやっています。

■約1200年前以降、大規模な山腹噴火は数十年から数百年の静穏な状態をはさんで発生しています。

## 大正噴火時の降灰、土石流、洪水発生状況

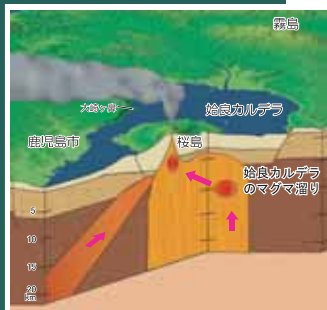


## 安永噴火の津波・浸水被害

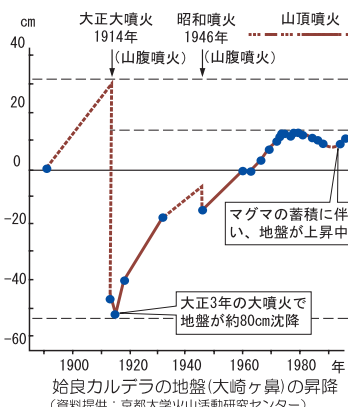
安永噴火では、島内だけではなく桜島北東の海底でも噴火があり、小池村(現桜島小池町)では波高十数mの津波が襲来しました。この津波により、浦之前などで9人が死亡、5人が行方不明になりました。また、大量にマグマを噴出したため、地盤が最大で数m沈降し、鹿児島城下が海水に浸かるなど、鹿児島湾沿岸地域では浸水被害も発生しました。



## 【桜島の防災】



桜島のマグマは始良カルデラのマグマ溜まりから供給されています。始良カルデラにマグマが蓄積されると地盤が上昇し、大規模な噴火が起きます。



■桜島では地盤が徐々に上昇してきています。現在、マグマは大正噴火時の8割程度まで溜まっており、大規模な噴火がいつ発生してもおかしくない状況です。

■桜島と私たちが共に生きていくために、国や県、市、町は様々な防災対策を実施しています。

■関係各機関の監視観測により、大規模噴火が発生しそうときには事前に予兆を捉えることが可能であると考えられています。



広域的な地盤の動きを測定するGPS



島内のわずかな傾きや伸び縮みを検知する坑道内の観測機器



火山の状態を見張る監視カメラ

## 【いざというときの情報】

■以下の情報を確認し、必要に応じて避難して下さい。  
＜火山活動等に関する気象台からの情報＞

### ■火山情報と火山活動度レベル■

火山情報	レベル	火山の状態	事例
緊急火山情報	5	極めて大規模な噴火が発生または可能性	大正噴火(1914年) 昭和噴火(1946年)
	4	中～大規模噴火が発生または可能性	1986年11月噴火(ホテルに5トンの噴石が落下等)
臨時火山情報	3	活発な火山活動	通常レベル(活発) 窓ガラスや屋根、車に被害
火山観測情報	2	比較的静穏な噴火活動	通常レベル
	1	静穏な火山活動	1950年～1955年の静穏期
	0	長期間火山の活動の兆候なし	事例なし



気象庁の火山情報、火山活動度レベルは普段から気象庁のホームページで確認することができます。  
<http://www.jma.go.jp>

### ■津波予報■

予報の種類	解説
津波警報	大津波 高いところで3m程度以上の津波が予想されますので、厳重に警戒してください。
	津波 高いところで2m程度の津波が予想されますので、警戒してください。
津波注意報	津波注意 高いところで0.5m程度の津波が予想されますので、注意してください。

## ＜避難に関する市町からの情報＞

段階	情報の内容
避難準備情報	大災害が発生するおそれがあります。お年寄りの方など時間がかかる方は避難してください。その他の方も避難の準備を始めてください。
避難勧告	大災害が予想され、危険が近づいているので、避難してください。
避難指示	大災害の発生が確定となり危険が予見される、または大災害が発生したので、避難しなければなりません。



これらの情報が、防災行政無線や広報車などにより、地域の皆さんに伝えられます。



火山灰が厚く積もった場合には、少しの雨でも土石流が発生しやすくなります。土砂災害が起こりやすくなったら、気象台および県、市町から土砂災害警戒情報や避難に関する情報が出ますので注意してください。

調査製作: (財)砂防・地すべり技術センター

監修: 桜島火山防災検討委員会火山防災啓発検討部会(検討部会長: 京都大学教授 石原和弘)

資料提供: 鹿児島大学・京都大学防災研究所 作成年月日: 平成19年1月作成